

星の進化の最初と最後の部分については、著者はまだ解明されてない問題だと断わりつつ、現在進行中の研究成果について言及している。著者自身の言葉を再び借用すれば、「困難な問題に対して、科学者がどのように挑戦してゆくかという点についても、本書がなんらかの影響を読者にあたえるものと期待している」とのことであるが、本書の全体がこの期待に根拠のあることを示している。

(3) もちろん本書は教科書であり、したがって通俗解説書を読むような姿勢で読み通せる程、楽な読み物でないことは当然であるが、大学初年級程度の物理・数学の一通りの知識があれば読むにさほどの困難はないであろう。

天文学を業とする人達には物足りなさを多少感じさせるかもしれないが、自然科学専攻の学部学生、それに高校の地学の先生たちに勧めることのできる教科書である。
(小杉健郎)

雑報

Schwassmann-Wachmann I 周期彗星の増光

1925年に発見されたこの彗星は、ほとんど円に近い軌道を持ち、周期16年であるが、大望遠鏡によってほとんど1年中観測されている。この彗星は時々不定期に突然増光することが知られている。その原因としては、太陽の活動が考えられているが、観測が少ないこともあって確実な関連は判っていない。北海道旭川市の土屋清氏と、高知市の関勉氏と愛知県の小島信久氏によると、本年9月から10月にかけて約11~12等までの増光が認められたそうである。

1974年	U.T.	m_1	m_2		
9月21日	12 ^h 49 ^m	11 ^m		} 視直径約3' 拡散状	土屋
21日	15 10	11			
23日	17 16	11.5			
10月5日	10 35	12	17	核あり、拡散状 直径約2~3'	関
10月6日	14 44	12.5			

土屋氏は口径 11 cm F/4.5 に 103a=0 使用、
関氏は口径 38 cm F/4.8 に FL-0II 乾板を使用、小島氏は口径 31 cm F/5 に FL-0II 乾板を使用しての撮影である。
(香西洋樹)

★★★★★★★★★★★★★★★★

一 わが国唯一の天体観測雑誌 一

天文ガイド

毎月5日発売！ 定価240円(〒32)



天文ファンの人たちに毎月の天文現象の案内や、ニュースの紹介をするとともに、望遠鏡の作り方、観測ガイド、天体写真の写し方など実用記事も掲載。
また、読者の写した天体写真、星座写真等たくさん作品や望遠鏡の自作レポートも網羅。

誠文堂新光社 東京・神田錦町一―五 振替・東京六二九九

★★★★★★★★★★★★★★★★

天文に興味を持ちはじめた小学校上級生から中学校1年生ぐらいの子供たちのための天文入門書

星空の12ヵ月

古畑正秋著 / A4判 / 定価、900円

12枚の毎月の星図を中心に、星座の話、星の明るさ、金星や火星の動き、流星、月のこと、天の川、変光星のことなど、はじめて星に心をうばわれた少年たちにわかるようにやさしく説明してあります。
■おもな内容――星座のさがしかた / 星座の歴史 / 星座の表 / 星の明るさ / 日出、日入の薄明 / 1月の空 / 冬のおもな星座 / 2月の空 / 星雲と星団 / 3月の空 / 金星のうごき / 4月の空 / 春のおもな星座 / 5月の空 / 火星の動き / 6月の空 / 7月の星座 / その他